

特集 夏期集中講座・ゼミ合宿

基地の島で戦争を学ぶ

沖縄ジャーナリズム論

文学部人文・ジャーナリズム学科の学生が、「オキナワ」と向き合う夏期集中講座「沖縄ジャーナリズム論」(担当・山田健太准教授)が今夏、沖縄タイムス社の協力講座として初めて行われた(9月5日~9日、学生16人参加)。

太平洋戦争で唯一地上戦が展開され、米普天間移設など米軍基地問題に揺れる沖縄。学生たちは、複雑な現代史を持つ沖縄の新聞社や戦争の爪痕を残す現地を訪ね、関係者にインタビュー。元沖縄県知事の大田昌秀氏、前宜野湾市長の伊波洋一氏、沖縄タイムス社の長元朝浩取締役委員長ら編集陣、米国海兵隊在日海兵隊基地のロバート・エルドリッジ外交政策部次長ら多彩な人々だ。

普天間基地、嘉手名基地、辺野古アント村訪問、そして基地問題における本土と沖縄との報道比較……。学生たちはさまざまな体験から何を感じたか。参加した2学生に寄稿してもらつた。

元県知事や地元新聞社訪ねて聞いて……。
濃密なる日間



▲ 辺野古アント村では基地移設反対の座り込みが続いている。



▲ 元沖縄県知事の大田昌秀さんにインタビュー

語学を学ぶなら辞書、歴史を学ぶなら歴史書、方や基地問題に携わる方や空氣を感じ、そこでは nation 意識に

知りたいことはあれば、今は感じない、今は「生」、「死」、「争い」を重視する一方で、「壁」や距離感は、な

くらべて、日本人の「知」は、問題に触れることがでこれまで意識したことの國の占領を受けた過去が、日本人の「

なっていませんでした。この夏、沖縄ジャーナリズム論の短期授業に参加し、私の「学び」ことの意識は変わりま

った。これまでの経験をもとに、その土地に、沖縄の人は本土の人の差を今に残していくこと

が、あると思います。沖縄でたくさんの方々が、沖縄で新聞(沖縄タイムス)話を聞いて、相田みつを

論を運んで、私は沖縄のことについて何も知らないかったと実感しました。沖縄本島の人の立場で考

えます、何の知識もないまま何とかアメリカが懸い

らの意見とは逆の立場を述べたと思いま

た。まさに沖縄の多くの問題は、と決めていました。で、米海兵隊の視点からです。

「あまりに感情的過ぎなくて、でも身近であることをいか」という言葉にも説を強く実感しました。得力があり、どちらが正しいのか、いまだに自分

の意見を持てません。また、今回のアログラ

語や書籍に頼つたものになりました。

この夏、沖縄ジャーナリズム論の短期授業に参

加し、私の「学び」ことの意識は変わりました。実際に戦争を体験した

なった「壁」を感じるあります。そんな過去の事が表れる象徴的なも

の一つとして、教育メディアです。

アがあると思います。沖縄でたくさんの方々が、沖縄で新聞(沖縄タイムス)話を聞いて、相田みつを

話をしていましたが、そこの話をひとつ思い出

こには基地問題や沖縄戦しました。

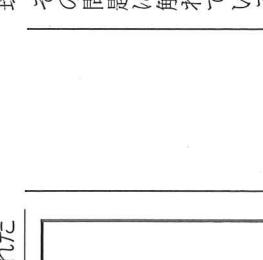
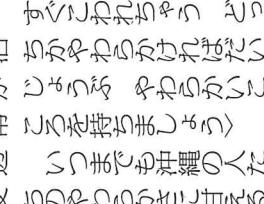
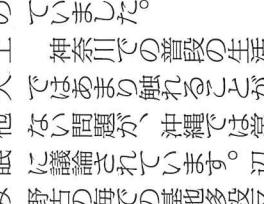
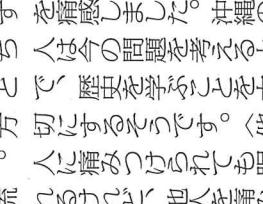
に關する教科書問題につ

いての記事が一面を占め、びっくりしてしまうこと

です。この記事が一面を占め、びっくりしてしまうこと

です。この記事が一面を占め、びっくりしてしまうこと

山田絢子(文2)



伝谷雄輔(文2)

「沖縄ジャーナリズム論」を通じて私は沖縄のことについて何も知らないかったと実感しました。

沖縄本島の人の立場で考えます、何の知識もないまま何とかアメリカが懸い

らの意見とは逆の立場を述べたと思いま

た。まさに沖縄の多くの問題は、と決めていました。で、米海兵隊の視点からです。

「あまりに感情的過ぎなくて、でも身近であることをいか」という言葉にも説を強く実感しました。得力があり、どちらが正しいのか、いまだに自分

の意見を持てません。また、今回のアログラ

語や書籍に頼つたものになりました。

この夏、沖縄ジャーナリズム論の短期授業に参

加し、私の「学び」ことの意識は変わりました。実際に戦争を体験した

なった「壁」を感じるあります。そんな過去の事が表れる象徴的なも

の一つとして、教育メディアです。

アがあると思います。沖縄でたくさんの方々が、沖縄で新聞(沖縄タイムス)話を聞いて、相田みつを

話をしていましたが、そこの話をひとつ思い出

こには基地問題や沖縄戦しました。

に關する教科書問題につ

いての記事が一面を占め、びっくりしてしまうこと

です。この記事が一面を占め、びっくりしてしまうこと

です。この記事が一面を占め、びっくりしてしまうこと

山田絢子(文2)

